

◀ ていつに會樂成 ▶

● 毎月趣味を同じうする人々にのみ分ける爲に新進名家に依頼して小学校や中等學校の唱歌科の参考鑑賞資料となるべき尤も清新高尚而も奥行のある藝術的教育的シーツミュージック(新特撰樂譜)を編輯するのが主なる目的であります

● 新特撰樂譜は毎月二種(姉妹編歌曲をさむ)宛同時に出します(今月は其第八十編と第八十二編とを出しました、なほ別に時々別紙廣告の通りの高等特撰樂譜と云ふ大きいものも出します)

● 會費一ヶ月金貳拾五圓宛數ヶ月分まとめて前納(振替東京一八一五三番成樂會宛)せられた向は共鳴者として會員名簿に登録して本部から毎月直接非賣品樂譜を發送致します、但し団体前金特別割引、其世話係幹事優待のこと

● 殘本少々つあり一度御照會を乞ふ

蛙の子

葛原滋 作歌

蛙の子 蛙の子
只一本の尻っぼで
何が そんなに忙しくて
朝から 晩まで ちよろ ちよろろ。
蛙の子 蛙の子
何してゐるのか 手もないに
何處へ行く氣が 足なしで
朝から 晩まで ちよろ ちよろろ。

雲雀

犬童球溪 作歌

一、春風顔を撫でて心ものぞけ、舞ひ立つ雲雀は翼も輕げに
八重の霞分けつつ雲居高く飛びゆく、聲は空に残りて、
かげは雲にかくるる、天の不思議探り來よ。

二、山々花々雲々、見るもの聞くもの皆々々すあり、聲のみ残して
雲に入りし雲雀は、歌ふ聲や疲れし翼胸にたたみて
見よや今ぞ落ち來る、天の不思議涙く語れ。

大正十二年四月一日印刷
大正十二年四月五日發行

非賣品

編者 成樂會

右代表者 原田彦四郎
福岡市土手ノ町十七番地
振替東京一八一五三番

發行兼印刷者 安部俊雄
東京市神田區三崎町三ノ一

發行所 音樂社
東京市神田區三崎町三ノ一